国際理解と平和の教育について（第３報）

川合　勇治　　斉藤　真子　　田内　公望

田中　裕巳　　長岡　咲子　　平松　良行

１．第１回　中三広島研究旅行について

斉藤　真子　　田内　公望
田中　裕巳　　平松　良行

【抄録】　初年度である中３「広島研究旅行」において、平和学習とグループワークがどのように取り組まれたかの実践報告である。学校行事と教科指導の関連を重視した事前、事後指導を試みた。また、被爆の語り部や訪問先の人々との交流の様子とともに、平和についての生徒の意識についても考察した。

【キー・ワード】　研究旅行　平和学習　グループワーク　自分史　学校行事

Ⅰ．はじめに

昨年度、高２が沖縄で平和学習をおこなったのに続いて、中３の研究旅行が高山から広島になったのは、学校改革の一環として、学校行事の見直しがされたからである。中３の広島への研究旅行は広島で平和学習をするとともに、義務教育を終えるにあたって、自分の生きかたを考えるために、三学期「自分史」をまとめることへとつながる。

Ⅱ　取り組みの経過

《中学三年》

春休み　担当団４人　下見

1991年

４．９　合同HR　広島研究旅行と自分史についてのガイダンス

４.19　旅行委員会　班決定

４.20　先生各係り分担

４.24　班の研究テーマ（クラス別）

５．２　憲法講演会　高木敏子
「『ガラスのうさぎ』と私」　著者
中学生全員『ガラスのうさぎ』を購入
感想文

５.10　各係りごとの集まり

６．４　班の研究テーマ決定
旅行委員会だより発行

７．１　グループワークの行程提出

７.12　演劇鑑賞「ガラスのうさぎ」劇団俳優館

夏休み　（グループワーク）訪問先への手紙連絡
戦争体験談の聞き書き

９.25　文化祭　映画鑑賞「千羽鶴」神山征二郎
アンケート、平和メッセージ（中学生全員）
「原爆の子の像」（広島平和公園）へ持っていく

９.26　文化祭　演劇コンクール
A組「かげの砦」弱いものに対する差別
B組「のら犬」戦争中と現代と比べ、幸せとは何かを考える

９．　『ヒロシマへの旅』（広島平和教育研究所）配布
授業（公民）で使用

10．３　各班打合せ

10．７　各係　〃

10.14　しおり最終チェック

10.21　折り鶴（2000羽）中２も協力、健康調査

平和セレモニー宣言文　事後アンケート
制作
10.31　PTA研修会、旅行についての保護者会
11.6　事前指導、事前研究発表会（図書館）
11.7～9　実施
11.11　事後指導
感想文　一口感想　アンケート
被爆の語り部、訪問先へのお礼の手紙
11.13(15)　グループワークのまとめ
11.18　グループワーク発表会
11.21　附属の時間に1，2年への研究旅行報告会実施（全員）
12.20　広島研究旅行報告集原稿提出
（主に語り部方のの話のまとめ）

1992年
1.28　研究報告集　完成　発送
2.14　研究報告集で、被爆の語り部のお話を生徒が記録したことについての記事が載る（中国新聞）
2.24　自分史（400字詰め原稿用紙20枚）提出

Ⅲ　事前学習について

1　講演、演劇鑑賞

憲法講演会　高木敏子「『ガラスのうさぎ』と私」91.5.2
演劇鑑賞「ガラスのうさぎ」　91.7.12

2　映画、ビデオ

「千羽鶴」映画　91.9.25
（文化祭、映画鑑賞会）
「夏服の少女」　ビデオ（HR）
「毒ガスの島、大久野島」　ビデオ（HR）

3　参考図書等

（全員購入したもの）
・『ヒロシマへの旅』広島平和教育研究所　155円
（図書館に広島コーナーを作る）
・『ヒロシマは昔話か」　新潮文庫
・『似島』　「原爆の子」
・『原爆のツメ跡』　原爆遺跡
・『ヒロシマの子』から
「平和公園碑めぐりフィールドワーク」
事後、中国新聞でもらった資料などを置く（新聞、テレビ）
・夏の原爆、戦争特集、テレビ「知ってるつもり」
平和公園ジュノー博士の碑

4　各教科の授業での取り組み

公民・『ヒロシマへの旅』　10月に4回
読み合わせと説明
英語・ジャパンタイムス「平和マラソン」　夏
・H1リーダー「SADAKO」　11月に1回
国語・『黒い雨』の横川駅部分を抜粋　4月
・戦争体験の聞き書き（祖父母）夏休み宿題
美術・「自分のイメージする広島」　9月に2回
広島について調べたこと知ったことを基礎にして広島（過去、現在、未来）のイメージを表現　文化祭で作品展示

【国語科での指導過程と聞き書きについて】

(1)　指導過程

1学期最後の国語の授業で、800字程度の祖父母からの戦争体験談の聞き書を夏休みの宿題とした。11月に行う広島研究旅行の第1日目の夜に被爆の語り部の方からお話を聞くことと、学年末に自分史をまとめることにつながることであることも説明した。

10月に、宿題として提出した聞き書を、授業で一人ずつ自分で読み上げ発表した。祖父母自身が自分の体験をまとめたものを見せてもらって書いたので、立派な文章になったもの（中3B　吹原）や「戦争体験談はあまりに辛くて」と祖母から話してもらえなかった子や、さまざまであった。中には、病気で入院中であまり聞けなかったという祖父がまもなく亡くなるという悲しい出来事もあった。そして祖母から、爆撃でやられながら一瞬のことで助かった事を聞いて「祖母が生きていなければ、今の私はいないのです」（中3B　溝口）とまとめた話はクラスの皆に共感を与えた。

(2)「聞き書について」

「戦争中の生活について」　[中3B　杉中]

私は、母方の祖母に、戦争体験談を聞きました。

昭和二十年、東京は空襲が激しくなり、三月に神田方面が焼けました。祖母は当時十九才で、千代田区一番町に住んでいました。そして、五月二十四日六時、空襲警報が発令されました。すると、家から八百メートルぐらいの所に、B29が墜落して燃えだし、火だるまになって、回りの家がどんどん焼けてきました。祖母はリュックに少しの食糧と衣類をつめ、皇居の外堀の近くへ避難しました。逃げる途中、焼夷弾がバーンバーンと前後に落ちてきて、とても怖かったそうです。祖母の家から外堀までは、一本道で、外堀から自分の家が焼けて崩れていくのがよく見え、その時、空は真っ赤でした。家は焼けてしまったけれど、外堀には何も落ちてこなかったので、祖母は助かりました。近くのプールぐらいの大きさの用水池に避難した人もいましたが、死んでしまった人が多かったそうです。

朝四時、祖母と祖母の両親とで家に戻り、焼け跡を片付けました。残ったものは、押し重なって箱の中に入っていた、きれの中側とトタン板ぐらいで、夜は庭

の隅にトタンを二枚ぐらい敷いて寝ました。どんなに寝にくかったでしょう。また、電気はなく、水道管は破裂してしまい、食べ物もほとんどありませんでした。明かりは、小さなものに油を少しため、きれの残りで芯を作り、それに火をつけたものでした。今では、考えられません。

食糧・衣料品は配給制で、区役所で切符をもらい、それを出して食糧や衣料をもらっていました。しかし、たくさんはもらえません。一番始めの配給は、缶詰が二つぐらいで、その後、にしんの配給などがありました。朝も夜もにしんだけという日が続いた時があり、食べあきてしまったそうです。お米は神奈川県にある祖母のお母さんの実家まで、もらいに行って、ご飯の中に大豆やお芋をいれて食べていました。また、“あかだ”という葉をとってきて、それをゆでて、おひたしにもしました。私は、祖母と庭の草取りをしている時“あかだ”を教えてもらいました。その“あかだ”は、そこら辺にある雑草として、私は抜いていましたが、戦争中は大事な食べ物だったのです。

服は、ほとんどなかったので、祖母は焼け残ったきれの使える部分を切り取り、ブラウスを作り、帯の焼け残りで、靴を作ったりしました。十九才の祖母は、新しい服が、ほしかったことでしょう。

そのうち、古い木材を集めて、大工さんに掘ったて小屋を建ててもらって、やっと屋根のある所に入れました。そして、八月十五日、戦争が終わったのです。これまでに祖母は何回も空襲に遭ってきましたが、五月二十四日の空襲は、最も激しく、祖母にとって悲しく忘れられない日になりました。

「戦争はゲームではありません。人を人と思わず殺し合うのです。軍隊と一部の人たちの独断で始められた戦争は、多くの国民を巻き込で、悲惨な生活に追いやったのです。命の尊さを考えて、絶対に戦争はしてはいけないと、これからの子供たちに語り伝えていかないといけません」

と祖母は、話してくれました。

（国語科　斉藤）

【美術科での指導過程と作品について】

(1)　指導過程

１学期最後の授業で夏休み中に自分なりの「広島」のイメージについて考えておく様に指示した。２学期の最初の授業にて「広島」のイメージを発表させた。研究旅行の内容にふれてもふれなくてもかまわないと注意をつけた。その段階では「広島お好み焼き」「広島原爆」「広島…宮島」「広島…カキ」「広島…はだしのゲン」「広島…カープ」「広島…マツダのルマン優勝」などと幅広いイメージを持っていた。そこで図書館から原爆の写真集、観光的資料、地理的分野、などの図書を借りてきて見せた。あくまで一つの方向へ片寄らないように注意を払ったつもりであるが、やはりそれらの中で原爆の写真集へのショックが大きかった様である。「お好み焼き」といっていた生徒も下図の制作途中、人のをみている内に一人一人と減って、原爆へのテーマに移っていった。ここでは見ていただけで何も言わなかった。生徒個人が何かを感じ変わっていった。そして大体、みんなのイメージの方向が見えて来た所で、次のことに注意した。

特に、原爆をテーマとする生徒には、単に原爆が広島に落とされ一度に多くの人が亡くなったという事実だけではいけない。人が亡くなったのは広島だけではなく長崎にも原爆は落とされている。そして、原爆ではないが、ここ名古屋も含めて日本国内の多くの地点が爆撃され人が亡くなっている。今では日本の領土ではなくなっている所もある。……戦争で人間が死んだのは日本だけではない。そういう認識で、その後の広島の《現在》とを照らし合わせる様に指示した。しかし、一方では、資料の写真を見れば見るほど、生徒の個々のイメージはその写真をただ写すだけになっていく。また、白黒の写真から色をどうしたらよいのか困っている。そこでコラージュやマーブリングの技法を薦めた。それにより写真からはなれたイメージでの制作がしやすくなった様であった。

評価では、あくまで生徒の「自分（個）のイメージ」を大切にということで進めたので、中には、全く広島に対して否定的で関係のない作品を制作したものが２～３いたことが残念であったが、それも可とした。どのような作品でも平等に評価することに留意した。

(2)　作品について

［中３Ａ　岩室寿佳］　（作品１）

原爆ドームを中心に両側に現在のビルを描き、現在の広島の復興ぶりや経済の繁栄を表現する。上は色紙をはる（コラージュ）ことにより、色をより鮮やかにし、太陽を描き、その光は原爆にも、また、現在から未来への希望の光にも見える。その光の中の人の形は手をつなぐ親子であったり、子供を抱く親、うずくまる人、手をあげている人である。手をあげている人などはこれを原爆と見るなら、助けを求めている様にもみえるし、反対に現在の繁栄している広島をよろこんでいるようにも見える。大変良い作品である。

［中３Ａ　アルバ勇］　（作品２）

広島城の天守閣、鳥、人、樹、ビル、など。

爆風で飛ばされていく瞬間を表現するのにバックにまずマーブリングを施した。そのことにより大気を渦まく何かが加わり、この作品をより意味のあるものと

している。

［中３Ａ　加藤直人］　（作品３）

時計の中に同じ原爆ドームを描いてあるのだが、対照的な色彩により時の流れを表現している。そして、現在の広島の復興ぶりと碑を手前に配置することにより、この作品が意味深いものになっている。

［中３Ａ　鈴木亜紀］　（作品４）

原爆ドームの所だけマーブリングをしない様に工夫した。その白く残った所へ、原爆ドームをグレーで描く。モノトーンの作品になった。今も残る原爆の恐ろしさを表している。

その他、カキの筏を描きながら、瀬戸内の風景を心象豊かに表現した心暖まる作品もあった。

（美術科　田内）

5　「学年だより」

下見、被爆の語り部の方、旅行の内容、進行状況、研究発表会、報告会の様子などをタイムリーに報告

【資料】学生だより「広場」から
原爆資料館と毒ガス資料館

田　中　裕　巳

広島の原爆について、授業では広島平和教育研究所の『ヒロシマへの旅』というパンフレットを使って考えました。平和公園のいくつかの碑についても解説してあり、私たちにとっては便利なパンフレットでした。韓国人原爆犠牲者慰霊碑が平和公園区域外にあるのは、「同じ被爆者なのに、またさらに差別されるのか」という韓国人被爆者の怒りが立ちこめているように思います。丁度タイミングよく先週の木曜日夜、NHKTV が「忘れられた兵士たち」という番組を放送しました。“原爆もの”は８月と決まっているような感のする番組編成の中では、私たちの広島行きをバックアップしてくれているのでは、と勝手に考えてしまいます。土曜日の授業で、ビデオで早速見ました。最後の方で、「原爆は祖国を解放したありがたい爆弾」というとらえ方が韓国では一般的であることが触れられていました。そういう風潮の中で、自らも被爆しながら被爆者たちの救援活動に従事した韓国出身の「日本兵」が、韓国に帰ってどういう生き方をしてきたか、被爆者であることを今どうとらえているか、実に考えさせられる番組でした。

日曜日の朝刊（中日）には、カリフォルニアの住民の世論調査で、原爆投下については「終戦へと導いた」として60％が正当化しているという記事を載せていました。植民地であった朝鮮や対戦国であったアメリカにそういう見方があるのは当然といえば当然ですが、被爆の実態がまだまだ知られていないからだと思います。そういう実態が核戦争を容認することにつながるのだと思います。

このビデオを見る態度も、Ｂ組が全体シーンとして静かにみているのに対して、Ａ組はおしゃべりをしたりコインで遊んでいたりして注意を受ける者が半数以上。Ａ組は幼稚人間が多いのでしょうか。

大久野島の毒ガスに関係する記事が火曜日の朝刊に載っていましたね。中国東北地方（特に敦化市）で、日本軍が遺棄した毒ガス弾、数万発が未処理のまま放置され、回収中や農作業中に誤って触れるなどした被害者500人以上の内、約300人が１、２カ月以内に死亡しているという記事でした。大久野島では、加害者としての戦争責任の問題を考えたいと言うのが目的でしたが、これも私たちの旅行に合わせた（？）タイミングのよい記事でした。　（『広場』27号、11月５日）

原爆資料館には２日目（８日）の朝８時半に着きました。９時からの開館ですので、開館まで慰霊碑の前で記念撮影。今年は写真屋さんがスケジュールがつかないと言うことで不参加。Ａ組の加藤君とＢ組の児玉君のカメラでクラス毎の記念撮影をしました。

それも10分くらいで終わってしまい、原爆資料館の下で待つこと10分あまり。私たちの前に並んでいる小学生の団体が100名ほど。これは開館から混雑するなと思っていたら、入場の際に一般の団体もあり、開館と同時に大混雑。だいたい小学生は真面目ですから全員手にノートと鉛筆。説明をいちいち書き写していますのでさっぱり進みません。附属の生徒の中には小学生の後ろを素通りで、いきなり出口までという生徒もいたようです。

前夜私たちは５人の被爆者方々のお話を聞きました。高校生が広島を訪れていた時代（４年前まで）は、平和記念資料館の会議室で当時の高橋昭博館長や詩人の吉岡満子さんのお話を聞いたものでした。たいがいは萩や山口、高松や松山を経由しての３日目でしたので、前夜来の寝不足からお話の最中に居眠りをする生徒が多く、引率者を赤面させてくれました。今回は、１日目の夜でもあり、15名前後の少人数でのお話でしたので、生徒たちの聞く態度は本当に立派でした。私は韓国人被爆者の郭福順さんのお話をＡ組の３班、５班、６班の諸君と共にお聞きしました。普段の授業の倍に近い時間を私語もほとんどなく、しっかりと耳を傾けていました。郭さんのお話は、息子さんの指紋押捺拒否の行動とその裁判のお話から始まり、韓国人としての自覚、誇りを持つことを息子さんの行動から教えられたこと、被爆者の代表としてアメリカに渡った際、国防省の役人の核抑止論（核によって平和が保た

れていると言う支配者の考え方）に泣いて抗議するしかなかった悔しさ、福井の小学校の時、いじめられている自分をいつもかばってくれた級友は今でも忘れられない“魂の救い”であること、家の下敷になってようやくはい出てきた時に見た人々の火傷の姿は本当に悲惨であったこと、などなど苦渋に満ち心を洗われるお話を、本当に淡々と語って下さいました。

そういうお話を聞いた翌日でしたから、原爆資料館には期待するものが多かったはずなのですが……。

（『広場』28号、11月11日）

この春休み中に中３の担任団に決まった先生方４人で、広島と大久野島の下見をしました。大久野島の国民休暇村は改修中で宿泊できないということで、大久野島には定期船で渡ることは渡りましたが、「かげた」に一泊してきただけでした。その時、平和公園の原爆資料館も改修中で、隣の平和記念資料館に資料が移され展示されていました。

広島の原爆資料館を見学するのは今回で７、８回目になります。私は長崎での被爆者なのに、長崎の原爆資料館にはまだ一度しか行ったことがありません。それももう４分の１世紀以上も前になってしまいましたので、大きなガラス瓶に入っていた「異常なタマネギ」しか覚えていません。広島の原爆資料館に初めて入ったのもほぼ同じ頃で、その後は附属高校の広島研究旅行で何年か連続して入りました。いつ入っても小学生などの団体が多く、その点では今年の春の下見の時が一番のんびり見学できました。

広島の最初の夜、お話を聞いた語り部の会の一人の方が「改装後、原爆資料館は展示の方法が悪くなった」と述べてみえました。限られたスペースしかない以上、展示する資料も厳選せざるを得ないでしょう。その方が言ってみえたことの一例は、「入ってすぐの、爆心地を中心とした市内のパノラマは東西南北も示していない」ということでした。私も仮設の平和記念資料館の展示の方が良かったと思う点がありました。新しい原爆資料館には、被爆者の証言ビデオが３台設置されていました。最新の機器を使うのはいっこうに構わないと思いますが、仮設の平和記念資料館の証言テープの方がずっと良かったように思います。３台のビデオの音声が入り交じるよりは、証言テープにイヤホーンで静かに耳を傾ける方が効果的だと思います。３台のビデオを見ているだけでは、デパートの電機用品売り場と変わりません。静かな雰囲気がなにより大切です。

もう一つ思ったことは、平和記念資料館の方にある「市民の描く原爆の図」とか原爆の映画、平和を祈念した絵画などが、原爆資料館と一体となっている方が良かったと言うことです。これは“原爆資料館の限られたスペース”ではやむを得ないのでしょうが、原爆資料館は改修ですますのではなく、あれだけの見学者が修学旅行生を中心として国内外から訪れるのですから、やはり拡張して立て直す必要があると思いました。

（『広場』29号、11月18日）

大久野島の毒ガス資料館は最終日の11時から見学しました。「しおり」では、大久野島に着いた直後を予定していましたが、館長さんのご都合で変更しました。

11時から館長の村上さんのお話ということになっていましたが、それまではサイクリング、釣り、テニスなどの自由行動の時間でした。生徒たちが時間通り集まるものか内心心配でした。11時10分前くらいになると、宿舎の玄関あたりに生徒が集まってきました。その中の一人が、「先生、毒ガス資料館って、どこにあるの？」というわけです。船着場から宿舎までの中間にあり、昨夜のキャンプファイヤーに行くときもその前を通ったはずなのです。原爆資料館のイメージで大きな建物を想像していたのかも知れません。しかしながら肝心の場所を知らなかった生徒たちも、ほとんど遅刻もなく、定刻にお話が始まりました。

本当に小さな資料館で、展示室は１室のみ。最盛時の工場の様子を写したパネル、毒ガス製造の陶製容器、防毒マスク、防毒面をした軍馬、工員の使用した器具・食器・通帳などなどが所せましと並べられています。開館が戦後40年余りも経ってから企画された割には、良く集められたものだと思います。その展示室のまん中のガラスケースを取り囲むようにして生徒たちは座っています。

村上館長のお話は30分ほどで、毒ガス兵器が人道兵器だと説明されていた非人道性、戦争について加害者の側面から学ぶことの重要性、戦争について学んだことが「人を傷つけない」日常の行動に現れなくてはならないこと、などを分かりやすくお話し下さいました。修学旅行で大久野島にきて毒ガス資料館を見学した中学生同士が、血みどろの殴り合いをして帰る例が、年に１、２回あるのが本当に残念だと語って見えたときの館長さんのお顔が印象的でした。

原爆資料館と毒ガス資料館について４回にわたって書いてきました。この２つの資料館は今回の研究旅行の中では、決して楽しい思い出とつながる部分ではないでしょう。しかしながら、２つの資料館にあった被爆者や工員の表情、黒い爪や陶製の毒ガス製造器の不気味さなどの中に、過去から現代への“警告”を聞き続けて欲しいと思います。　（『広場』30号、11月25日）

Ⅳ　実施内容について

1　行程

［1日目］

広島グループワーク（約5時間）

解散　11：10　広島駅

集合　16：30　横川駅　旅館かげた

夜　①原爆体験談（被爆の語り部）の聞きとり

5つのグループに分かれて聞く。

録音

②グループワークの簡単な報告会

［2日目］

原爆資料館、平和記念館の見学

平和公園の碑めぐりフィールドワーク（班）

原爆犠牲ヒロシマの碑の前で平和セレモニー

夜　キャンプファイヤー、肝だめし

［3日目］

大久野島自由行動（つり、サイクリング、テニス、野球）毒ガス資料館　講演と見学

2　行程の特徴

(1)　自由研究（グループワーク）

男女6～7人のグループワークで、各班、自由にテーマ（歴史、文化、美観、水産業、原爆、平和など）を選び、広島の市内を見学（市内の原爆遺跡を1ヶ所は入れる）したり、訪問地でお話を聞いたりして研究する。

例えば、広島城は数グループが行ったので、久保浦さん（被爆の語り部）にいてもらい案内（被爆樹、大本営跡、石垣）と説明を受けた。放射線研究所を訪問したグループはスライドをみせてもらい説明を受けた。

【行　程　表】

1991年11月7日～9日

	行　　程
7　日 （木）	集合　7:10（名古屋駅　メディア・ワン） ひかり 63号　ひかり 29号 7:39　8:44　9:06　10:50 名古屋――新大阪――広島……旅館かげた（泊） 広島グループワーク　被爆の語り部の 11:10　16:30　方からの聞き取り
8　日 （金）	旅館かげた＝＝平和公園（原爆資料館，平和公園碑めぐり，平和ｾﾚﾓﾆｰ） 8:00　8:30　9:00　10:30　11:30 ﾊﾞｽ　ﾌｪﾘｰ ＝＝＝　忠海～～～　大久野島　ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲｱｰ 14:45　15:20　肝だめし 国民休暇村大久野島（泊）
9　日 （土）	午前中（フリータイム）　毒ガス資料館見学　昼食後出発 ﾌｪﾘｰ　こだま360号　ひかり 90号 13:15　13:50　14:00　14:20　14:57　16:52　17:08　18:08 大久野島～～～三原港……三原駅――新大阪――名古屋 解散 18:20（名古屋駅メディア・ワン）

観光ﾎﾃﾙ かげた　広島市西区横川町2-6-14　TEL(082)231-1122
大久野島国民休暇村　広島県竹原市忠海町　TEL(08462)6-0321

広島城の被爆樹

グループワーク研究テーマ一覧

A組

１班　広島の文化
２班　広島の美景
３班　広島の歴史を探る
４班　広島の傷跡と残された課題
５班　広島を知る
６班　平和を知る

B組

１班　ドキュメンタリー '91広島の謎をさぐる
２班　広島の水産業「カキ養殖」
３班　動物愛護
４班　広島の文化
５班　広島城と下町
６班　広島にある美

(2)　平和学習

①被爆の語り部の方のお話

５人の被爆の語り部の方（内一人は韓国人の被爆者郭福順さん）に、それぞれの方の原爆の体験とその後の生きかたについてのお話を聞いた。生徒達は「その時のありさまが目にみえるよう」だと真剣に聞き入った。

被爆の語り部へのお礼の手紙

〔中３B　家田直和〕　　久保浦さんへ

この間はいろいろと有難うございました。僕たちの班は広島城でもお話を聞きました。かげた（旅館）での被爆のお話では今までの事前学習などでやったきた様にただ、単にその被害を見たりするのじゃなくてそのあとの生きのびるための苦労や苦しみが実感できた様な気がします。これからも原爆だけじゃなくいろいろな平和学習をして二度と戦争を起こさないようにがんばりたいと思います。これからもがんばってください。

〔中３A　黒田謙二〕　　郭福順さんへ

先日は被爆の貴重なお話をして下さって有難うございました。朝鮮人であり、差別を受け、さらには原爆まで受けて……。郭さんの話を聞いて、差別や核に対する考え方がだいぶ変わりました。指紋押捺拒否を子供から学んだなどという話をありがとう。これからもより多くの学生に被爆体験の話をして下さい。本当に有難うございました。

〔中３A　入江真千子〕　　桑原千代子さんへ

この度は貴重な体験をお聞かせ下さり、誠り有難うございました。戦争体験のお話は祖母から聞いたことがありましたが、あまりくわしいことは分かりませんでした。しかし、桑原さんのお話は細かいところまでよく分かりました。そして、お話されたことは次から次へと私の頭の中で「絵」となっていきました。そうすることで桑原さんの体験されたことが少し「見える」ような気がしたのです。

桑原さんのお話を聞いて、私は今まで抱いていたギモンがいくつか解けました。長くなるのでここには書きませんが、私は桑原さんのお話を聞くことができたことをうれしく思います。

②原爆資料館、記念館の見学

③平和公園の「碑めぐりフィールドワーク」

グループで事前に回るコースを決めた。

13箇所（爆心地～原爆犠牲ヒロシマの碑）の碑は必ず回ることにして、それ以外でも自由に回ってよい。全員がフィールドノートの質問に答える。副班長が採点して、全問正解者にはテレホンカード贈呈。

【資　料】

平和公園「碑めぐりフィールドワーク」

〔　〕の番号は地図中の番号

いよいよ碑めぐりのフィールドワークに出発です。次の質問の答えを見つけ書いて下さい。

Ｑ１　［０］爆心地に現在建っている病院の名前は？　（島外科）

Ｑ２　［４］原爆ドームは戦前は何といわれた建物ですか？　（産業奨励館）

Ｑ３　このドームの西側太田川と元安川をまたぐＴ字のめずらしい橋は？　（相生橋）

Ｑ４　［16］原爆の子の像は別名「　何　」の像と呼ばれていますか？　（千羽鶴）

Q５　[20] 韓国人原爆犠牲者慰霊碑の台座はどういう動物をかたどっていますか？また、冠の図柄はなんですか？　（カメ）、（双竜）

Q６　[21] 義勇隊の碑に刻まれている川内村温井隊はこの朝、何をしていて全滅しましたか？
（建物疎開の作業）

Q７　[22] 広島二中原爆慰霊碑の碑文の裏には教官何名と生徒何名が亡くなったと書かれていますか　（教官７名と生徒343名）

●　碑文を確かめたら一人生存者がいたので342名でした。

Q８　[25] 原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑の碑文には広島の被爆歌人正田篠枝さんのどういう歌がきざまれていますか

（太き骨は　先生ならむ　そのそばに　小さき頭の　骨あつまれり）

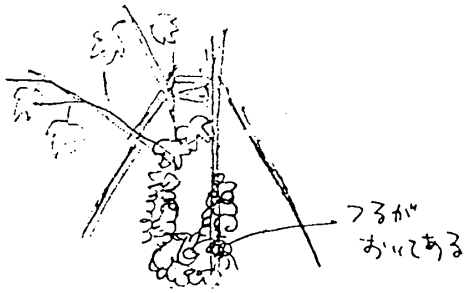
Q９　[29] 広島市立高女原爆慰練碑の中央の少女が持つ手箱には何と書かれていますか。
（E＝MC２）

Q10　[35] 嵐の中の母子像は、第何回原水爆禁止世界大会を記念して、広島市婦人連合会のお母さん達によって建てられたものですか。
（第５回）

答えが書かれていませんでしたので削除しました。

Q11　[39] 被爆したアオギリは現在どんな様子か絵に書いて下さい。

●　皆さんとてもすばらしいものでした。
その中でＡ組新美陽子さんの絵を載せます。



Q12　[40] 峠三吉詩碑は派出所と便所のかげにかくれた所にあります。峠三吉は28才で被爆しました。戦前の三吉は「アカシヤ、アカシヤ、ゆれる花ぶさ、アカシヤよ、いつまでもいつまでも、わたしの胸に咲いててておくれ」というロマンチックな詩をかく叙情詩人でした。碑文にはどういう詩が書かれていますか。
（ちちをかえせ　ははをかえせ　としよりをかえせ　こどもをかえせ　わたしをかえせ　わたしにつながる　にんげんをかえせ　にんげんの　にんげんによりあるかぎり　くずれぬへいわを　へいわをかえせ）

Q13　[42] 原爆慰霊碑はどういう形をしていますか。
（はにわ型）

Q14　広島のシンボルともいうべきこの碑には「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」という言葉が刻まれていますが、後の碑文論争で問題になった「過ちは繰り返しませんから」の主語はどれに落ち着きましたか。

①日本人　②アメリカ人　③全人類　（③）

Q15　[53] 原爆犠牲ヒロシマの碑は何で出来ていますか。　（原爆瓦）

Q16　何川の河床で1974年、広島の高校生達は被爆瓦を発掘しはじめたのですか。　（元安川）

④平和宣言文と平和セレモニー（献鶴）

平和宣言文は各班の班長が文章を考え、それを持ちより作った。碑めぐりフィールドワークの終点の原爆犠牲ヒロシマの碑の前で旅行委員長がそれを読み上げ、全員が黙祷、献鶴をした。

【資 料】

平和セレモニー宣言文

私たちは、今回、広島に来るまでに「戦争」について祖父母から聞いたり、映画や講演会などでいろいろ学びました。でも私たちは、戦争を直接体験していませんので、本当の苦しさ、悲惨さがよく分かりません。だから少しでも多くの戦争のことを知り、平和への誓いを確かなものにしようと、この広島にまいりました。

昨日は、フィールドワークや被爆の語り部の方たちからの聞き取りに取り組みました。そして今日、平和公園で、私たちは、はじめてあなた方のあじわった苦しみや悲しみを共感できたように思いました。私たち

は、戦争を知らない平和な時代に生まれ、思わず、あなたがたの苦しみなどを忘れがちです。今日ここで皆、一人一人が感じることの出来た平和の大切さを忘れないようにしたいと思います。

1945年８月６日、広島に投下された原子爆弾の被害を知って、人々は核戦争の恐ろしさを知りました。そのため、その後の日本には戦争が起こることがなくなりました。しかし、世界各地では、いまだに戦争は止むことがありません。どんなことがあろうと戦争はあってはいけないものです。戦争するのも人間ですが、戦争をなくすことが出来るのも人間です。これからは私たちの時代です。私たちは、これからの平和を願って出来る限りの努力をすることをここに誓いたいと思います。そのためには憲法第９条を守り続けて行くことが必要だと思います。また、私たちは戦争や核兵器使用という名の大量殺人を二度と起こさないために、平和で誰もが幸せに暮らせることの大切さを、日本だけではなく、アジア、中東、ヨーロッパ、アメリカの人々へも呼びかけるようにしたいと思います。

1981年２月に広島を訪れたローマ法王ヨハネ・パウロ２世は、「過去を振り返ることは、未来について考えるということです。ヒロシマを想い起こすことは、核戦争を拒絶することです。ヒロシマを想い起こすことは、平和について考えることです。戦争という人間が作り出した災害を想い起こし、『戦争は避けることが出来ないものでも、必然的なものでもない』ということをしっかりと心に刻み込まなければなりません。」とおっしゃったそうだす。私たちもこの言葉を心に刻み込んで、核戦争を拒絶したいと思います。

私たちはこれから大久野島に向かいます。46年前までは大久野島は、毒ガスを製造し、多くの中国の人たちを苦しめ殺害しました。戦争は自分たちが苦しめられるばかりでなく、対戦国の民衆を苦しめ殺害するものであることを理解した来たいと思います。広島と大久野島の両方の視点、立場に立つことによって、「過去を振り返ることは、未来について考える」ことが可能になるのだと思います。

ここ平和公園には、戦争の犠牲になった方々が、大勢眠っておられます。この方々のためにも、私たちの未来のためにも、地球上のすべての人々に平和が訪れることを祈り、絶対に戦争をしないこと、戦争の原因となるような差別や抑圧を先ず私たちの身の回りからなくして行くことを誓います。

1991年11月８日

名古屋大学教育学部附属中学校３年生
代表　新　美　学

献　鶴

⑤大久野島毒ガス資料館での村上館長のお話と見学

毒ガスを通して戦争における加害の面を知る。

⑥グループワークにおける平和学習

a　グループワークで原爆、平和、傷跡のテーマを選び、研究する。（放射線研究所、平和研究センター、中国新聞社、広島別院等）

b　グループワークで広島の市内に残る原爆遺跡を必ず一つは見学

グループワークでは、Ａ組の６班のように直接「平和を知る」をテーマとして研究した班がある。

Ａ組の６班は平和科学研究センターの松尾雅嗣先生にお話を聞いた。

次に、中国新聞社を訪問し読者センター長の伊狩文隆さんにお話しを聞き、当時のたくさんの新聞資料をもらった。

「一生懸命聞いても、難しかった」という感想とともに次のようにまとめをした。

「1991年度　広島研究旅行報告集」より

[中３Ａ　森野]

平和科学研究センターに行って、お話を聞いているうちに私たち６班が考えていたお話とだいぶ違っていると思いました。私たち６班は原爆の研究などを主にやっていると思いましたが、原爆の研究はほとんどやっていないようでした。平和科学研究センターでは、「戦争」「開発」「人権」「環境」のすべての問題が解決した時にはじめて“平和”といえる、とお話ししてくださいました。だから戦争がないことが平和を意味しているのではないことが理解できたと思います。それから人権についても説明してもらいました。南の国とのあらゆる面での差、なぜ南の国は貧しいのか、経済が貧しいのか、経済がうまくいかないのかなどのお話しも聞きました。

平和科学研究センターに行って、６班は新しい意味　　での平和を知ることができたと思います。

【資 料】Ａ組　６班（石原、三宅、御宿、山口、森野、黒田、長崎）　　図書館廊下に掲示（　Ｂ紙　）

平和科学研究センター

平和学とは．．．

平和を妨げる主な原因を分析し「平和」のいろいろな条件を探ること

環境　1990

第3期→ 自然環境の破壊が地球全体に拡大

酸性雨の被害
・数千の湖や沼で生物が死滅
・穀物の収穫高が20%減少

森林破壊の原因
・短期間での焼き畑のくり返し
・木材を目的とした森林の伐採

土壌の悪化の原因
・森林破壊が土地の悪化をもたらす

砂漠化の結果
農業不可能→「環境難民」

戦争　1950～1960

第1期→ 戦争の原因と平和の諸条件が中心

この時期の研究の特徴
平和概念としては当然のことながら平和とは、まず何よりも戦争がないこと

研究の主たる対象
戦争と戦争の心理、思考様式をも含むそのいろいろな原因、今日の平和研究の言葉で言えば直接暴力でした。

研究の方法
行動科学と言われる方法、具体的には数学モデルを用いた定式化と実証データによる検証をその特徴とします。

平和

人権　1980

第2期→ 構造的暴力

直接的暴力
だれがだれに対して暴力行使したかについて、その因果関係が明らかな場合を指す。

消極的平和 → 直接的暴力のない状態。

積極的平和
制度や構造に内在した構造的暴力の解消。

構造的暴力
悲惨な状態を引きおこす社会構造と国際関係の構造に含まれる要因を、戦争の直接的暴力に対し、構造的暴力と呼ぶ。
「貧困」「差別」「人権」「飢餓」は第三社会構造に起因する暴力である。
（ガルトゥング）

開発　1970

第2期→南北問題→中央主権的で暴力的手段を振るうことを厭わない強権的な政治体制

↓

開発と経済成長を最優先課題とすること
衣裳一体となす政治的抑圧
国家の中枢を軍人あるいは軍人出身者とテクノクラートが占めていること
このような政治体制は人・物・金のあらゆる面で、先進国と密接な関わりをもつこと

↓

民衆はこのような国家目標に従うことしか期待されていない。
開発の成果が民衆にほとんど配分されない。

「中国新聞に行って」　〔中３Ａ　森野〕

中国新聞社では平和を訴えるための記事を世界中のたくさんの国々に出しています。また、戦争に関する特集記事を組み日本中にも平和を訴えています。その中で私たちは「世界のヒバクシャ」という中国新聞の一部を読みました。それには世界で取材した核兵器の被害の様子や放射線の恐ろしさが記事としてのっていました。

こういった取材や記事によって中国新聞社は平和を訴えているということがよく分かりました。戦争当時の新聞には事実とはまったくちがう戦争の状況ばかりが書いてありました。もし本当のことを書けば銃殺だったと言っていたので、言論の自由の大切さもよく分かりました。私たちは中国新聞社の出す戦争に関する記事がもっと世界に伝わってほしいと思います。

また、一方では、Ｂ組の６班のように直接的には「平和」をテーマとせず「広島にある美」のテーマで広島県立美術館とひろしま美術館などを訪問した班が、学芸員からその建物のデザインには「建物の回りには水が流れ、水の波紋をデザインした扉など、原爆で焼かれて水を求め、さ迷った人々の気持ちをあらわしているのです」という説明を聞きいた。原爆を経験した広島の人々のこころにふれたのである。

「グループワークの感想」

［中３Ｂ　山田建］

ぼくが広島でのグループワークで一番印象に残っている所はひろしま美術館です。そこでの案内人の人はとても親切に物事を語ってくれました。例えば、この美術館を作った人は被爆者で、みんなが苦しんで水を求めているのを見てきた人で、苦しい時、一枚の絵を見て大変なぐさめられ、自分は心のゆとりの場所を作りたい、ということで作ったらしいのです。いろいろと有名な絵がかざってあって、行って良い所だった。

(3)　半日（第３日目）の自由行動

（つり、サイクリング、テニス、野球など）

瀬戸内海の風光に恵まれた大久野島で、その自然を満喫するとともに自由時間を楽しむ。

島内のいたる所に兎がおり、追いかけっこをして楽しむものもいた。

大久野で釣りを楽しむ

Ⅴ　事後指導

1　グループワーク発表会

グループワークのまとめ（報告集用）とＢ紙作成（図書館廊下へ展示）

2　中１、中２への研究旅行報告会

附属の時間に２クラス全員が中１、中２へ出かけ、報告する。（旅行全体）、（生徒自身の感想）

【資　料】　学年だより『広場』第30号より

広　場

名古屋大学教育学部附属
中学校３年学年だより
第３０号　1991.11.25

◎先週月曜日の研究旅行のグループワーク報告会は、柔道場で行われました。担任団４人の採点で、次の２グループが最優秀に選ばれました。

Ａ組１班　“広島の文化にふれる”
Ｂ組６班　“広島にある美”

多くの班が発表にも工夫をこらし、なかなか真面目な発表態度でした。
また２１日の木曜日の６限「附属の時間」には、中３全員が講師団となって、中２、中１の４クラスに広島研究旅行の報告会がありました。平和セレモニー宣言文の紹介、行程・グループワークの説明などが行われました。下級生のクラス全員の前で話さねばならず、上がりっぱなしの生徒など、ほほえましい風景でした。

発表会と報告会

先週の５、６限に行ったグループワーク発表会ではＡ組の１班とＢ組の６班が同点で、１４点を獲得して優秀賞に選ばれ、班全員がテレホンカードをもらいました。次点はＢ組の１班の１３点でした。Ｂ紙にまとめたり、発表内容がきちんとしており、わかりやすく声も大きく発表した班が入賞しました。また、入賞は出来ませんでしたが、Ａ組の６班の平和科学研究センターと中国新聞社の報告は内容があり、時間制限で切られたのはおしく思われました。

次の、２１日（木）の６限の附属の時間の中１、中２への広島研究旅行の報告会は中３の全員が分担して、旅行について話しました。報告会は平和公園で原爆資料館見学と碑めぐりをした後、高校生達が拾った原爆瓦でつくられた原爆犠牲ヒロシマの碑の前での平和セレモニーで読んだ「平和のための誓いの言葉」を紹介することから始まりました。自分の担当分かすむと「ああ緊張した」「声が小さかった？」「拍手がもらえたよ」とさまざまな感想が出ました。行程やグループワークや被爆の語り部の方についての説明の間に大久野島の兎や広島の市電や説明をしてくれた「おねえさん」などのエピソードが笑いを誘います。中３生にとっても旅行を振り返るよい機会と経験になった報告会でした。（斉藤）

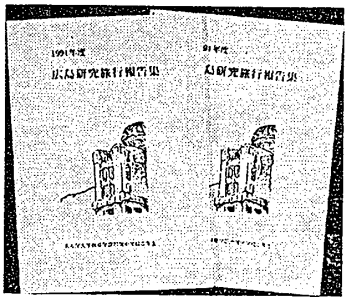
3　研究旅行報告集作成

① 5人の被爆の語り部の方のお話と毒ガス資料館館長村上さんのお話を自分たちで録音しまとめる。
② アンケート
③ 一口感想
④ 感想文　800字
④ お礼の手紙
　5人の被爆の語り部の方と各グループワークの訪問先でお話を聞いた方へ
⑤ グループワーク研究のまとめ

【資　料】　中国新聞2／14の記事より

被爆体験聞き記録

名古屋大付属中が報告集



昨年十一月、研究（修学）旅行で初めて広島を訪れた名古屋市千種区の名古屋大教育学部付属中学校（日比裕校長）の三年生が報告集をまとめ、中国新聞社に送ってきた。

報告集はB5判、百五十二ページ。二クラス計七十九人の感想ひとこと集、グループ別の研究成果、旅行後のアンケート結果などを載せている。

旅行は二泊三日で、初日は十二の班に分かれ、広島の文化、美観、歴史、水産業などの研究テーマを決めて広島市内を見学。夜は旅館で被爆者の体験を聞き、翌日は平和記念公園で平和セレモニーを開いた。三日目は竹原市沖の大久野島を見学した。

報告集は生徒たちが分担して作った。被爆体験談を自分たちで記録し、三十七ページにわたって載せているほか、みんなで考えた平和宣言も収録。「戦争の原因となるような差別や抑圧をまず私たちの身の回りからなくしていく」と誓っている。

アンケートでは、被爆体験談が印象に残ったという生徒が九〇％を超えた。学年主任の田中裕二教諭（四九）は「平和教育を学校目標に新たに掲げ、広島を旅行先に選んだ。戦争の問題を考えていこうという姿勢が芽生えてきた」と評価している。

名古屋大教育学部付属中の「広島研究旅行報告集」

Ⅵ　生徒の意識について
――アンケートより――

(1)　被爆の語り部の方のお話

	男子	女子
とてもよかった	56％	68％
よかった	36％	32％
それほどでもなかった	8％	0％

第1日目の夜、旅館での5人の被爆の語り部の方のお話は「自分が原爆を体験した」（中3B児玉）かのように生徒は受けとめ、深い感銘を受けた。また、「自分史」の中でもそれにふれて「戦争や平和の問題はとてもむずかしいものだが、宮田さん（語り部の方）のお話から少しずつその答え（疑問に思っていたことの鍵になるようなもの）になるようなものをみつけだすことができたように思う」（中3B山田ュ）と書いた。

(2)　グループワーク

取り組みは次のようであった。

	男子	女子
熱心に取り組む	15％	20％
普通に取り組む	70％	75％
あまりやれなかった	15％	5％

「グループワークが一番良かった」という意見が結構多く充実感を残した。その理由は次のようである。

① テーマが自由に選べる。
② 班でのまとまりが必要で、行程に工夫ができる
③ 市電、町の人、方言、など、広島の人々の生活に直接触れることができる
④ 訪問場所近くの原爆遺跡に立ち寄り、被爆当時と現代との比較をすることができる。

グループワークは、現地や旅行後の感想でも充実感を残したが、準備段階では、テーマ決めや行程の決定でグループ全員の意見がまとまらず、旅行委員が調整するのに時間がかかった。準備段階（5月のテーマ決め）から、グループごとに顧問（相談する）の先生をつけることも考えられてよい。

(3)　自分の考え方や生き方との関わり

広島研究旅行は自分の考え方や生き方に影響を与えたかということについては、ほとんどの生徒がなんらかの影響を与えられたと答えている。

	男子	女子
大いに与えた	15％	15％
少し	59％	68％
計	74％	83％

Ⅶ　「広島研究旅行」と「自分史」

(1)　「自分史」をまとめることへのつながり

三学期になり、卒業式の3週間前の2月24日が「自分史」の提出期限であった。400字詰め原稿用紙20枚と表紙用のファイルと資料を入れるビニール袋を渡した。卒業を控えて、義務教育を終えようとする今、生まれてから15年間の自分の人生を振り返って、「自分史」を書こうということで取り組んだ。

多くの生徒が、中学三年生の思い出として、11月に行った「広島研究旅行」を取り上げて、それについて書いた。旅行直後に書いた感想が「研究旅行報告集」にまとめられているが、それと比較すると「戦争について」また「原爆について」の自分の考え方に変化のあったことが分かる。

生徒たちは、「広島研究旅行」第１日目の夜、被爆の語り部の方からお話を聞いた。未曾有の被爆体験を語り部の方と共有することによって、過去の時代とその後の語り部の方のそれぞれの生き方を理解することに、一人一人がその心を向けた。そして３学期、卒業を控えて、生まれてから15年間の自分の人生を振り返った。祖父や祖母の関わりの中で、また、生まれた頃の社会の状況を調べる中で、「自分史」の中に、広島研究旅行での語り部の方のお話がよみがえってきた。また、５年後、10年後の自分の生き方を考えると、地球の将来や戦争と平和の問題は大きな関心事となってくる。「広島研究旅行」が「自分史」をまとめることに、どのようなつながりを持ったかについて、次に「自分史」の中から紹介したい。

「自分史」からの抜粋

「４　広島の原爆と戦争」から

［中３Ａ　大脇美紀］

中学三年生になって、研究旅行で広島へ行った。事前に、いろいろと原爆の事などを調べて行ったものの、実際にその地を訪れてみると、予想以上に当時の状況が最悪だったのが思い知らされた。人の影が残るほどの熱線や、家が吹き飛んでしまうくらいの熱風を受けて死んでいった人々は、「あっ」と思った途端に姿を消した。今に例えて言えば、一緒に話していた友達が跡形もなく消えてしまうと、こんな具合だろう。

広島に限らず、人々は訳もなく殺された。戦争という、国同士の戦いは、その国に住む人々の身体や心を傷つけた。今のように何でもすぐに手に入る時代ではなかったし、建物も木造ばかりであまり丈夫じゃなかったのだから、不安はいやという程あったと思う。

辺りが昼間のように明るくなり、爆弾の雨の中を逃げたという私の祖母は、戦争体験を話してくれた。敵機は、昼間のように明るくなる照明弾とともに、数百機で編隊をつくってやってきた。とにかく音がすごくて、家の横に掘っておいた防空壕に逃げた。幸いけがもなく、一時間程の悪夢が去ってみると、家の回りは、焼けてしまった他の家があり、全く違う風景があったそうだ。自分の家も、半分は焼けてなくなったり、二箇所くらいの爆弾の跡がついてしまったりと、一時間程の悪夢の跡は確実に残った。その、戦争を知っている家に、今私が住んでいる訳だけれど、その跡は、戦争を知らない私でも、すごい爆弾だったんだろうなぁと想像させるようなものだ。そんな恐ろしさを目の当たりにして、まだ小さかった祖母はよく耐えられたなぁと思った。

「聞き書き」を祖母に頼んで思ったことは、笑っては話せないということだ。戦争を体験した本人にとって、こういう思い出話をすることはとても辛い事だと感じた。家族が罪もなく死に、周りは変わり果てる、そんな戦争だから。思い出しながら話してくれる祖母の横顔は、なんだか寂しそうに見え、あまりたくさん話してくれなかった。祖母をこういう気持ちにさせるのも戦争があまりに恐ろしく、悲惨なものだったからだと思う。

広島の原爆についても、同じようなことが言える。今までにいくつか見たビデオや本、全てに言葉にならない程の情景がある。でも、それが本当に起きた事なのだから。見る人、個人、個人がそれを受け入れなくてはならない。そして、被爆者や戦争を体験した人々から話を直接聞くことによって、これから生まれてくる、何も知らない子供たちへと、伝え続けていかなければ、この原爆、戦争という出来事は、しぜんと違う話題へと、かき消されてしまうだろう。

日本の人々だけではなく、世界中の人々が協力して戦争のない平和で幸せな世の中を作っていければいいなあと思う。平和、戦争を作って起こすのも、それをやめるのも、伝えることができるのも、全て人間。そして二度と起こさないようにするのも、もちろん人間。もし、今起きたらどうなるのか、それくらいの想像は誰にだった出来ると思う。

しかし、現実は、私達の身近で戦争が起こるように、何もかもが進歩している今の時代だったら、簡単に人を殺すこともできる。

そういう複雑な、人間と技術の交差する時代を、うまく平和に乗り越えられたら、それ以上のことは望まない。

「自分史」の「５章　広島見聞録」から

［中３Ｂ　宮田了輔］

食事が終わると７時30分から被爆の語り部の方からの聞き取りが５つの部屋に分かれて行われた。僕の班は宮田幸子さんでした。僕は宮田さんのお話を聞いて広島の原爆の恐ろしさをしみじみ感じた。話されたことが頭の中で「絵」となるのですが、それだけにゾッとしてしまい、怖くなってしまいました。絵にするのをやめようと思ってもやめれませんでした。その時に頭の中で描かれた絵はまだ克明に覚えています。話の中で特に家族が次から次へとなくなっていく話があったが、とても悲しそうだった。助けてあげたいが今の

僕たちには、そこまで出来る力がない。経済力がない。だからといって何もやらないことはいけないと思う。僕たちには二度と戦争を起こさない使命があるのだと、話を聞き終えて、そう思いました。（中略）

最初の目的地は平和公園である。平和公園について最初に感じたのは、名古屋に比べ、木が広葉樹ばかりで葉がなくさびしく感じた。バスから降り、原爆慰霊碑の前で写真を取ったが、その原爆慰霊碑の前の芝生付近にいるハトの数には驚いた。余りにも多すぎるからである。今でも襲われそうで僕の方が怖かった。その次には広島平和記念資料館と広島平和記念館を見学した。前者が大変有名な所で８月に改装し直したばかりであったが、きれいすぎて僕の心には原爆の恐ろしさがぴんと伝わってこなかった。昨日の「語り部」のお話の方が原爆の恐ろしさを認識させられた。ガラスのささったオルガン、熱でまがった鉄鋼、人の影、黒い雨、黒く長い爪、曲がった眼境、三輪車と、普通では考えられない、想像出来ない物ばかりであったが原爆の恐ろしさを直接的に感じるのではなく、第三者的な目でしか感じる事しかできなかった。（中略）碑めぐりで印象に残っているといえば嵐の中の母子像と原爆慰霊碑と原爆ドームと元安川に魚が泳いでいるのが見えたことです。原爆ドームは思っているのより意外に小さく見え、色も明るい茶色に見え、原爆時から残っている被爆建造物だと思うと原爆のもたらす被害の大きさが頭の中をよぎって、ぼうぜんとしてしまいました。原爆慰霊碑は逆に思っていたのより大きかったです。嵐の中の母子像も同じだと思いますが、彫刻などの芸術で原爆の恐ろしさを訴えた方が見る（聞く）側として想像力が最大限発揮され、より一層原爆の恐ろしさが分かるのではないかと思う。だから僕にはその二つの碑が印象に残っているのである。碑めぐりも時間が来てしまい平和セレモニーに移った。僕は平和セレモニー宣言文の中の最後の段落の、最後の文章が心に深く残りました。本当に僕はそこにうたっている事を行動に移して、なくしていきたいと心の中で黙祷の時間に誓いました。（中略）

大久野島の自由時間が終わると毒ガス資料館見学と村上館長のお話がありました。建物は意外と小さくはじめてその横を通った時は、全く気付きませんでした。展示室は一室しかなく、パネルや製造に使われた器具がひしめきあって展示されていました。館長の話は毒ガス兵器が人道兵器だと説明されていた非人道性であるとか、戦争は加害者の目で学ぶことや、戦争について学んだことが人を傷つけない日常の行動に現れなくてはいけないなどどれも心に残る、又もう一度考えさせられるような良い話ばかりでした。（中略）

「５章　広島見聞録」の～９～
“「広島」というものの見方の移り変わり”について

最初「広島」は歴史上の名でしか頭の中になく、原爆の恐ろしさなどなんとも思っていなかった。事前学習をしてもめんどくさいなぁとか、もう聞きたくない（うっとおしい）としか広島への態度・見方をしなかった。しかし、その態度・見方が変わりだしたのは語り部からの聞き取りだった。（理由は前に述べた）やはり恐ろしさを知るには、聞き取りが一番良かった。原爆と聞くだけで心が何か引っかかるようになってしまった。でも、原爆資料館を見ても、何故か僕の心はピクリともしなかった。（よく分からない。）毒ガス資料館へ行った時は原爆でなく戦争という恐ろしさ（人を殺すということでなく、人間の性格などあらゆるものを変えてしまう怖さ）まで考えさせられた。旅行が終わると一段と態度・見方・関心が強くなった。音楽をあげてみてもそうだった。何か恐ろしい暗い感じの曲を聞くと、すぐに広島が頭の中をよぎるのだった。また、FM、AMでも原爆、広島、戦争などという言葉が出てくると、その言葉がこびりついてしまうのだ。意識をしなくてもそうなってしまうのだ。新聞や本にしてもそうだった。そのような事だけで、体がゾッとする。今は戦争や原爆が恐ろしくてたまらない。この世の中から一刻でも早くなくしてほしい。でも、平和セレモニー宣言文の最後の文（ここ平和公園には、戦争の犠牲になった方々が、大勢眠っておられます。この方々のためにも、私たちの未来のためにも、地球上のすべての人々に平和が訪れることを祈り、絶対に戦争をしないこと、戦争の原因となるような差別や抑圧を、まず私たちの身の回りからなくして行くことを誓います）を行わなければ、いつまででも、戦争はあると思う。戦争という言葉が存在しない世の中にしたい。

(2)　「自分史」について

本校では昨年度より附属高校全入制度が導入され、中学生が受験から解放されたために、そのゆとりを利用して「卒業論文」として自分史を書くことを課した。もちろん、卒論といっても、大学生のそれとは違い、稚拙なものである、自分史といっても自叙伝ほどの大げさなものでもない。各自が自分の能力、体験に応じて一生懸命「過去から未来へ向かう自分」を素直に出してくれればいいのである。

一応のガイドラインを示して、生徒が作業に取りかかりやすくしたのであるが、形式にあてはめることは強制しなかったので、各自、自由な発想で書くことができてよかった。

内容は、ほとんど自分の経歴を真正面からとらえて

出生から現在、さらに数年後の自分の姿を予想しているものがほとんどであった。しかし、ふだんの学園生活からはうかがい知れない生徒の心の深いところもかいま見ることもできた。「戦争体験のある人」のお話を聞き、それにたいする自分の感想も含めてあり、全体としては見応えのあるものになっている。
特色のあるものとして、

1．自分の持っている障害について他人には打ち明けにくい内省的な内容のもの
2．フィクション形式にして自分の主張を自由に表現したもの
3．学校・教師に対する不満を表明したもの
4．両親の離婚による本人の苦悩を打ち明けたもの
5．自分を英雄化して強くアピールしようとしたもの

など、実に多彩で、女子よりも男子に特徴のあるものがみられた。

分量についても、原稿用紙15枚から70枚に及ぶものまでバラエティーに富んでいる。

スタートした時には「はたして中学３年生が卒論のようなものが書けるのだろうか」と心配もしたが、今から考えると、余計な取り越し苦労であって、本校では国語、社会を中心に、事あるごとに生徒に文を書く指導がなされているので、その成果が現れているものと思われる。　　（中三担任　平松）

【資料】学年だより『広場』第46号より

『自分史』から・・・10年後、20年後の自分

生徒達は、この１年かかって、といっても実際は３学期が中心でしたが、『自分史』を執筆しました。400字詰め原稿用紙70枚にもおよぶ力作もあり、全員分を紹介したいところですが、あまり差障りのない「10年後、20年後の自分」の部分について、３人の分を紹介します。

〔中３Ａ　三浦　亜紀子〕

○――将来。少し前までは、軽くうけながすことができた言葉。そんなことをもうすぐ決めなくてはいけません。どんな大人になりたいか、なにをしたいか、何ができるか、笑ってごまかせることではありません。

私なりに考えているのは、絵の勉強がしたいということです。とりあえず、高校でも、美術を選択して、できれば、それからも。絵は、才能が必要だと思いますが、一度、本格的に習ってみたいと思っています。

何をしたいかは『絵』ということで、おさまりますが、何をできるかは、少し難しく、これからの課題です。これから、高等学校に進むことによって、自分のしたいこと、できることを、考えていきたいと思います。

自分の心に忠実に、それでいて、思いやりのある優しい人になりたいと思います。そのためにも、自分の夢のためにも、これからがんばりたいと思います。

そして、私が変わっていくように、世界はどのように変わっていくのでしょうか。今よりも、よりよい星になることを望んでいます。まず一番に思うことは、戦争をいうものを、この世界から、１つ残らずなくしてほしいということです。広島に行ったことによって、私の中の戦争への思いは、大きく変わりました。『遠い存在』から「人を傷つけるだけのもの』へと。戦争をして、何が残りましたか。街は燃え、人々は傷つきました。戦争が傷つけるのは、人の体だけではありません。人の体が、限りなく傷つけられるのです。戦争が終わった今も、広島の人々の心には、消えない大きな傷が残っています。（中略）

地　　球　　三浦亜紀子

宇宙の中の小さな星
その星は　泣いているのに
誰も　そのことに気付かない
その星を救えるのは
その星に住んでいるあの人達だけなのに
気付かず争ってばかり
前に進むことばかり考えて
一番大切なはずのその星の
叫び声に気付かない・・・・
　それとも
　気付かないふりをしているのですか？

〔中３Ｂ　野村龍作〕

○中学卒業、高校卒業はほぼ決定しているので、その先の大学、そして就職、そして死ぬことまで考えて書いておきたい。

まず大学だが、もちろん、行きたいという希望はある。できれば、慶応あたりに行けたらいいという、ずうずうしい根性もある。いい高校に入れたのだから、しっかり勉強して夢をかなえたいと思う。

次に就職だが、動物好きなことから、WWFのような組織にも入ってみたいし、給料の高い外交官みたいな仕事もいいなと思う。昔は、密猟のTVを見たりして「ハンターをハント」する「ハンターハンター」になりたいと思っていた。うーん。それもい

いな。でも、結局は、ふつうより少しいい会社のサラリーマンになりそうな気もする。その辺はまたゆっくり考えて決めたい。

そして、最後は死。

人間、最後は死ぬようにできているのに、中途半端な医学で「死なせない」。運命は運命、その運命をいい加減に変えようとする人間達はバカだとはっきり思う。「よけいな事はするな！」という感じだ。「脳は死んでも体は生きている」バカな話だ。そんなものは「だからなに？意味あんの？」といってやりたい。ぼくの祖父も病院にかけつけた時は心臓マッサージに入っていた。5分以上やっていたそうだ。父はとめた。えらいと思った。僕も脳死状態になったらすぐに死なせてほしい。

生まれかわってアフリカの大草原で生活に必要な最小限のこと、生きていけさえすればいい人生を送ってみたい。本来の人間とはああいうものだとよく思う。数学などいらない。あんなものは少しでも多くのことを知りたいという奴だけやってりゃいいのだ。ぼくはそう思う。そうありたいものだ。

〔中3B　宮田了輔〕

○僕は将来のことは余り考えたことがない。なぜならば、毎日が忙しいからである。僕は今、勉強やいろんな事に束縛されない日を一日だけで過ごしたい。過ごせばいいじゃないかと思うかもしれない。でも、そうすればいつかはツケがまわってくる。僕はそういう事が行（ママ）ならない日がほしいのだ。中2の担任だった高木先生に言うと、「そりゃ、誰でもほしい。でもそんな日が一日でもあったら、人間は進歩しない」と言われた。その通りだと思うが、今の僕はどうしてこうなにかに、いつも束縛されているのだろうか。

人間、長い目で先を見ろとよく言うけど僕には僕の周りにある物が多すぎて先が見えない。一つずつ片付けて行くのだが雪だるま式に増えてゆく。まるで2次関数のように。しかし、人間、誰でも与えられた時間は同じだ。そんな中で僕は他の人よりバカだ。僕より頭の良い人はたくさんいる。そんな人たちに負けている事がくやしい。という事は、僕の時間の使い方がへたでは、十年後の僕はないだろう。でも、僕はできる限りの事をして出来なければ、それが僕の運命だったのだろう。だからといってあきらめたくはない。十年後の自分、二十年後の自分を少しでも良くするために、より多くの経験を積み、より多くの失敗をしたい。そうすれば十年後になっても、後悔はしないだろう。それで僕はいいと思っている。一応、目指したいのは、世界各国を飛びまわる仕事か困っている人や難民、国を助ける仕事か人との交流を活発にする仕事（例、NGOや名古屋国際センターなど）につきたい。多分、独身だろうけど・・・・・。

Ⅷ　高2の沖縄研究旅行へ

多くの生徒が、中3の広島研究旅行を終えて「平和について、戦争について、少し知った気がする。しかし、まだまだ知らないことが多い」ということに、「気づいた」と言う。このことを出発点に、高2における沖縄での平和学習が始まるのである。

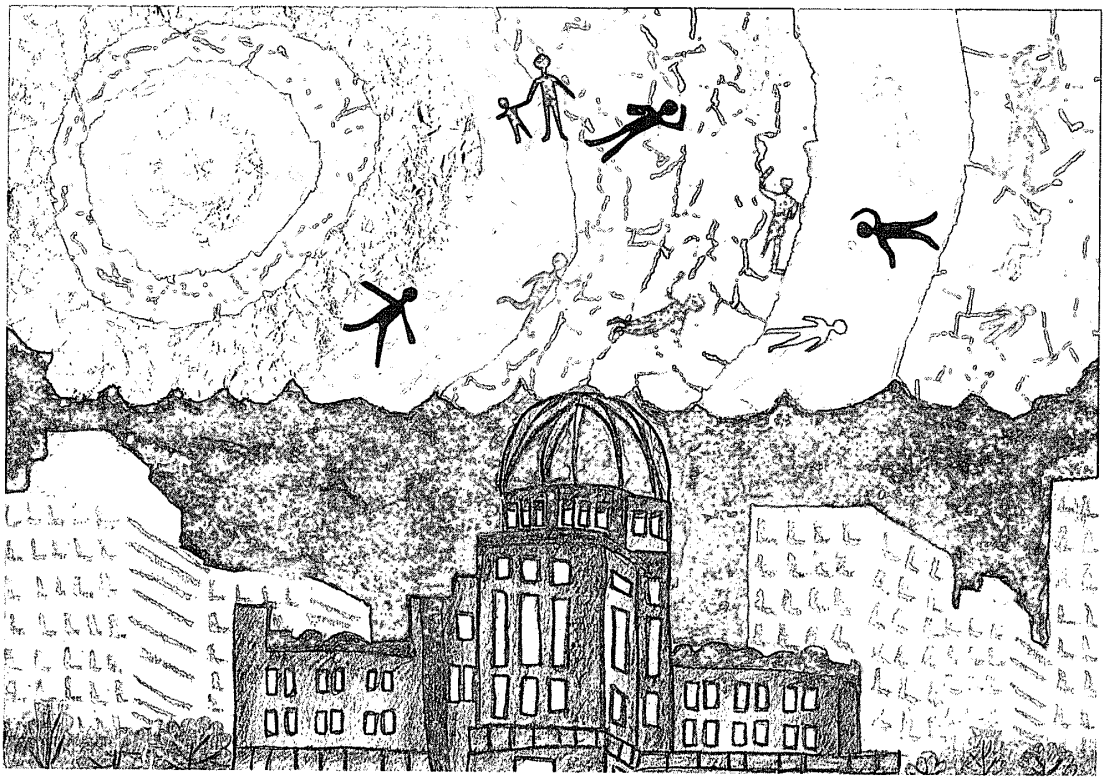
中3の「広島研究旅行」から高2の「沖縄研究旅行」へは、平和学習として、生徒一人一人の意識の中で発展的に、また自覚的に取り組まれることが必要である。中3で「広島研究旅行」を経験した生徒たちが、2年後の「沖縄研究旅行」の取り組みの中で、どのような問題意識を持ち、グループワークや講演や全体コースでの説明や見学の中でそれを広め、深めることができるか。

「沖縄から見ると、日本がよくわかる」といわれるように、生徒たちは“経済的繁栄”の中で暮らしている時には見えてこない日本の姿を知ることであろう。また、真の豊かさとは何かについて考えることであろう。

平和とは、戦争、環境、人権、開発のすべての問題を具体的に解決することである。平和学習は、一人一人の生徒が自分の「生き方」を考えることにつながる。

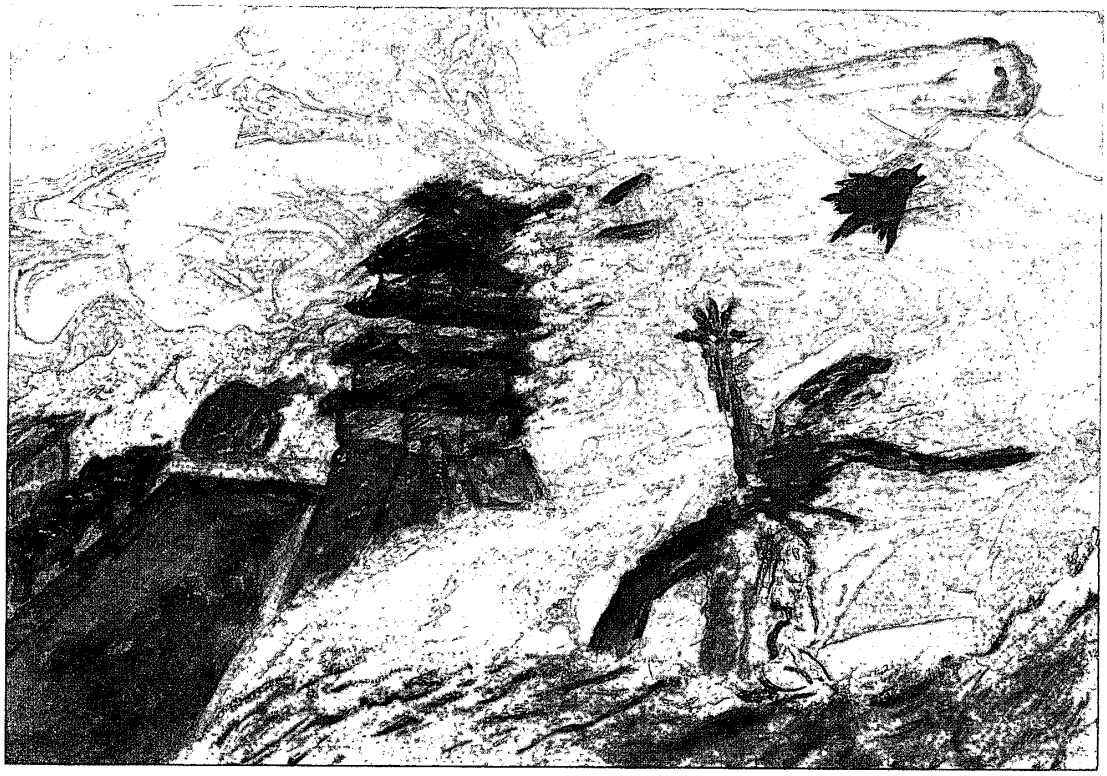
（文責　斉藤）

作品１



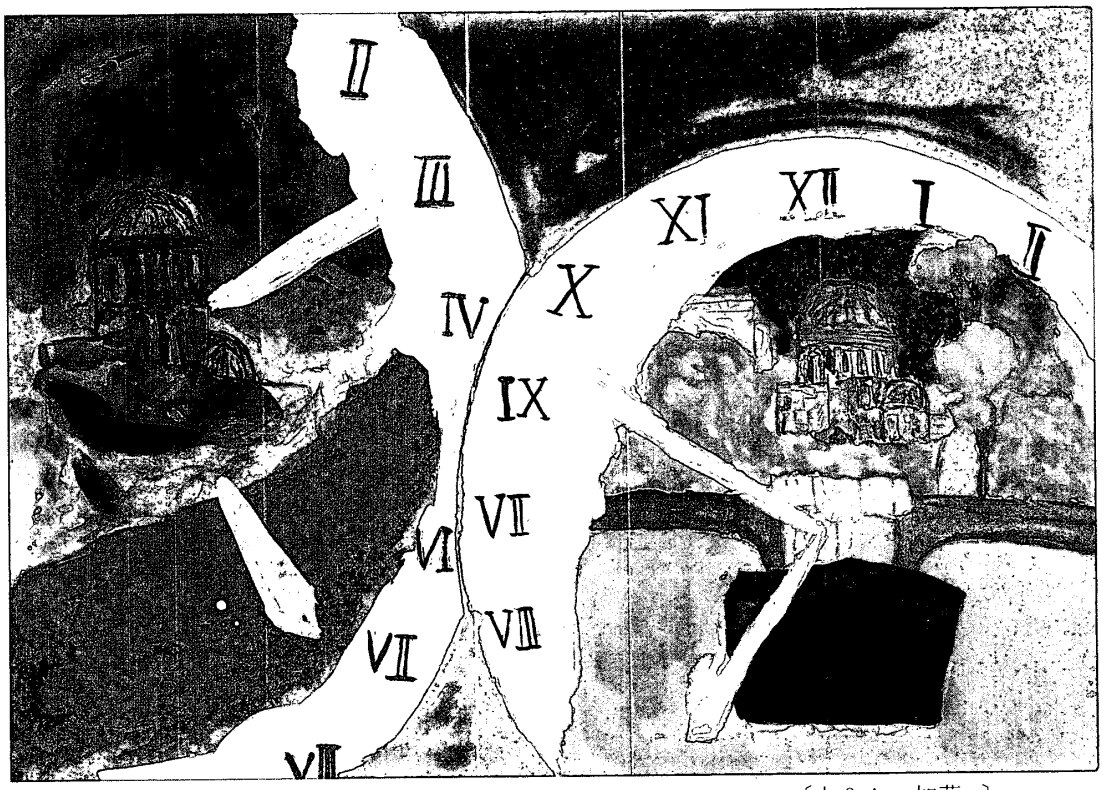
〔中３Ａ　岩室〕

作品２



〔中３Ａ　アルバ〕

作品 3



〔中３Ａ　加藤ｋ〕

作品 4

〔中３Ａ　鈴木〕